学校番号	１０７

令和８年度　音楽科

教科	音楽	科目	器楽 （ピアノ独奏）	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	各専攻楽器による教材						
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

楽曲について分析・理解した内容をもとに、それらを的確に表現するための技術を身に付けましょう。自分の音や人の演奏をよく聴き、素直な心で音楽と向き合い、音楽を感じることで豊かな表現力を身に付けてください。鍵盤楽器の魅力を感じたり、また他の楽曲とも関連をもたせたりしながら自らの楽曲への思いを表現しましょう。
教材、指導内容は、各自の個性、能力等によって異なります。

2　学習の到達目標

ピアノに関する専門的な学習を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、専門的な音楽に関する資質・能力を次の通り育成することを目指す。
【知識及び技能】楽曲の表現内容について理解を深めるとともに、創造的に表現するために必要な技能を身に付けるようにする。
【思考力・判断力・表現力等】音楽性豊かな表現について考え、表現意図を明確にもつことができるようにする。
【学びに向かう力、人間性等】音楽性豊かな表現を追求する態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・楽曲の表現内容について、曲想、音楽の構造などに加え、文化的・歴史的背景との関わりなどについて理解をしている。【知識】 ・自分の表現意図をもって、創造的に表現するために必要な技能（曲にふさわしい音色、身体の使い方などの技能や、表現形態の特徴を生かして演奏する技能など）を身に付けて、器楽で表している。【技能】	楽曲の内容や、音楽の構造を分析し、フレーズや楽曲全体をどのように演奏するか、表現意図を持っている。また楽曲の文化的・歴史的背景や様式を踏まえた演奏法などについて考え、音楽性豊かな表現について考え、創意工夫の過程において知識技能を生かし、どのように演奏するかについて表現意図を持っている。	様々な時代や様式の音楽、地域やジャンルなどによって異なる多様な音楽について主体的に学習し、楽器の特徴などを生かした音楽性豊かな表現を追求する過程に関心をもち、主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価します。年度末評定については専攻によって評価の比率が異なるため、教科担当より説明します。

4　学習の活動

学期	題材	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	独奏	任意の楽曲の演奏	a:【知】 ・鍵盤楽器に関する基本的な知識を持ち理解している。 ・楽曲について、曲想、音楽の構成などに加え、作曲家の文化的・歴史的背景などの関わりについて理解している。 【技】鍵盤楽器に関する基本的な奏法について理解し実践できている。 b：鍵盤楽器に関する知識や技能を総合的に働かせ、楽曲に応じた、音楽の構造を分析し、創意工夫の過程において知識技能を生かし深めながら、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。 c:各自が取り組む楽曲が作られた時代や様式について、関心をもち、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとしている。	第1回実技試験	ワークシート 振り返りレポート【試験前】 振り返りレポート【試験後】	ワークシート 振り返りレポート【試験前後】
後期		任意の楽曲の演奏 ・志望大学の入試課題を中心とした課題曲の分析および演奏		第2回実技試験	ワークシート(次の目標) 振り返りレポート【試験前】 振り返りレポート【試験後】	ワークシート「次の目標」 振り返りレポート【試験前後】

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度